



やまね便り

～本のある風景～ 図書館職員イチ推しの本棚

写真のどこかに
やまねがかくれているよ！
ほくと妹をさがしてね！
答えがわかった人は
近くの図書館カウンターへ！
しおりをプレゼントします!!



すたま森の図書館
Photo: T. Suzuki

『八月の銀の雪』



伊与原 新 / 著
新潮社

第一六四回直木賞候補作、私が選ぶならこの本！短い時間でも読める短編が5編。ストーリーも味わい深い、理系の著者ならではの視点に心を動かされる作品。

913.6 イ

『ねむたいひとたち』



M. B. ゴフスタイン / 著
谷川 俊太郎 / 訳
あすなろ書房

ねむたい、小さい人の家族のおはなし。あたたかみのある絵とおはなしで、幸せな気分になります。本の大きさが手のひらサイズというところもポイントです。

E ネ

『小説日本婦道記』



山本 周五郎 / 著
新潮社

武家という封建的な社会の中で、家族のために生き抜いた日本女性の美しさや奥ゆかしさを描いた作品。一冊から日本人で良かったと思える。

913.6 ヤ

『ツナグ』



辻村 深月 / 著
新潮社

一生に一度だけ、故人との再会を叶えてくれる使者「ツナグ」を通して紡がれる5つの連作長編小説。亡き人を想い、今自分の周りについている人を想い、悔いなく生きたいと思わされた一冊。

913.6 ツ

『たまごのはなし』



しおたに まみこ / 作
ブロンズ新社

あたりまえのことしか言っていないのに、なぜか心に響く「たまごのはなし」。ちよととシユルな絵と哲学的な語りがかくれている。何度でも読み返したくなる絵本童話。

913 シ

『まほろしハワイ』



よしもと ばなな / 著
幻冬舎

大切な人を失ったオハナたちは、思い出が詰まったハワイへ旅行に行くことに。悲しいお話かと思いきや、不思議とそうならぬのがこの物語の魅力！本編の他に2編収録。今だからこそ読んでほしい一冊。

913.6 ヨ

『きつねのがっこう』



いもと ようこ / 作
講談社

「こんげんのあたまではからっぽですか？」キツネの目線から、人間がいかにかつねに頼りすぎているのかを問いかける。便利であるからこそ立ち止まって考えて欲しい。そんな願いが込められた幅広い世代におすすめの一冊。

E キ

『ヒカルの卵』



森沢 明夫 / 著
徳間書店

森沢作品にどっぷりはまるきつかけとなった本。「大丈夫俺ツイてつから」といつも前向きな主人公ムーさんとそれを支える仲間たちがいる！読後の幸福感を多くの人に味わってほしい。

913.6 モ

別巻 好評連載

新米司書
シショコが行く！
【第3話】

あたしは、シショコ。この図書館に勤め始めてまだ3ヶ月... まだまだわからないことばかりだけど、今日も元気にがんばるぞ〜

あたしは、シショコのせんぱい。司書になって今年で10年。かわいいうれしいわ。さあ、シショコ、今日もピンパインくわ〜

文:T.Suzuki イラスト:A.Kawano

『同僚は宇宙人』
職場のモヤモヤ掃マニュアル



野澤幸司 / 著 小学館

私の下に一人の新人が配属されてきたのだが、それ以来どうも不調続き。人の話を聞かない、周りを見ない、気配りが出来ない、おおよそ「宇宙人」という言葉とは、百万光年かけ離れたいる彼女のことを私はどうしたらいいのか思い悩む日々が続いてきた。だがある日、一冊の本が私に天啓と福音をもたらしてくれた。そうか！彼女のことは、遥か彼方からやってきた地球外生命体だと思えばいい！観察すればいいのだ！そう思っただけで、観察を続けていくと、わが図書館に生息するシショコという生き物に私は最近愛着すら持ち始めていた。私としたことが...

『織細さんの本』
「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる



武田友紀 / 著 飛鳥新社

図書館で働き始めた私は、まだまだ仕事にも慣れて戸惑うことが多い。特に職場で機械が勝手に動かさなくなったり、相手の気持ちを考えすぎて（特にせんぱい）自分の意見を言えなくなったり。でもこの本を読んでよ〜！わかったの！この本に書いてあることはまさに私！私はハイパー・センシティブ・パーソンなんだって。やだっ横文字でかっこいいじゃない！寝てみる？でも最近そんな私の織細さを先輩も理解してくれてるような優しさを、まるで近所の子ねを見つめるような優しい眼差しを注いでくれてうれしすぎる。うふ。これからは私の織細ぶりをアピールしながらお仕事にはげまなくっちゃ！

書架イラスト:K.Taniguchi

編集後記 今回の紙面は、前回好評だった「図書館職員が全力でおすすめる本第2弾」です。今回も本のプロが、ぜひ読んでほしい！と思う本を厳選して紹介しています。ぜひ手に取っていただくと幸いです。第1弾で紹介させていただいた本を全読破してくれた利用者さんがいたとか…。うれしい限りです。(あーちゃん)

発行日 令和4年2月25日 問い合わせ 中央図書館(金田一春彦記念図書館内) TEL 0551-42-1374 創刊号 平成17年3月31日(年3回発行)



北杜市図書館
ホームページ
http://www.lib.city-hokuto.ed.jp

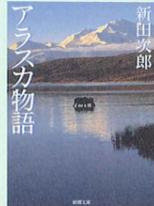


北杜市図書館
ツイッター
@hokuto_lib



北杜市図書館
フェイスブック

『アラスカ物語』



新田 次郎／著
新潮社

ジャパニーズ・モーゼと讃えられた
フランク・安田の生涯。
物語は、印象的なオーロラと荒涼と
した水原の描写から始まる。人種差
別、ゴルドラッシュ、過酷な舞台。
雄大な自然とパンテミック、今でも時
折手に取りたい一冊。

913.6 ニ

『すべての見えない光』



アンソニー・ドーア／著
藤井光／訳 新潮社

戦時下、フランスにて盲目の少女の
電波に乗せた言葉が一人のドイツ
軍少年兵の心を癒す。そして訪れる
二人の奇跡の邂逅。
思いを乗せた言葉というものは今
も昔も、きつと誰かの元に必ず届く
はずと強く得心させる物語。

933.7 ト

『Michi みち』



junaida／著
福音館書店

表側から男の子、裏側から女の子が
それぞれの道を進むと、繊細な描写
と鮮やかな色彩の街が出現。ページを
めくる度に不思議な世界に誘い込ま
れる。どちら側から読むかは自由。字
がないからこそ想像力が広がる、大人
にもすすめたい絵本。

E ミ

『夢もまた青し』



志村 ふくみ／著
河出書房新社

人間は最後一切を捨てる、それが
空である。ただ唯一この世に残るも
の、それが去る術。
染色の道を高めた人間国宝の志村
ふくみと娘の洋子、そして孫の昌司。
真の魂の継承がここに。

753 ユ

『100万回死んだねこ
覚え違いタイトル集』



福井県立図書館／編著
講談社

厳選された「覚え違いのタイトル」に
絶妙なゆるいイラストがついて、めくる
たびに思わず吹き出してしまふ。
笑って読んでいたはずなのに、気がつい
たら真剣に正解を当てにいっている自
分がいた。司書魂発動(笑)!

015 ヒ

『犬部! 北里大学獣医学部』



片野 ゆか／作
ポプラ社

青森県の北里大学獣医学部には、
居場所のない動物たちを保護し、次
の飼い主を探す活動をしているクラ
ブがあります。これは、実在する人物
たちによる、笑いあり涙ありの青春
ノンフィクションストーリー!

645 カ

『野生のロボット』



ピーター・ブラウン／作 絵
前沢明枝／訳 福音館書店

無人島に一つの木箱が流れてきた。
中に入っていたのはロボットの口。
口は生きていくために野生動物た
ちの真似をして言葉を覚えた。そして
親を亡くした一羽のがんと子どろが
ロス家族となつたが、やがて別れが
やってくる。読んだ人の心を温かく
してくれるおすすめの一冊。

933 フ

『ひかりの魔女』



山本 甲士／著
双葉社

「こんなおばあちゃんをそばにい
ていたら……」
優しく、誠実なおばあちゃんの人柄
に魅了される一冊。毎日を丁寧に、
繋がりを大切に積み重ねていけば、
いつの日にかひかりおばあちゃんに近
づけるかも。

913.6 ヤ

『ぼく モグラ キツネ 馬』



チャーリー・マッケジー／著
川村元気／訳 飛鳥新社

ぼくはモグラとキツネと馬と順番
に出会い、問答を交わしながらみん
なで旅を続ける。そこで交わされる
言葉に、はつと気づかされたらう
なずいたり。美しいイラストと共
に、心に響く言葉があふれたステキ
な絵本!

726 マ

『猫町』



萩原 朔太郎／作
金井田英津子／画 平凡社

小説の挿絵はうるさく感じることが
少なくないが、金井田さんの版画は
何やら魔術的な作用で読者を物語に
引きずりこむ。金井田さん、猫町に
住んでました?
萩原朔太郎の見た幻覚世界を追体験
する文学画本。

913.6 ハ

『おおきな木』



シェル・シルヴァスタイン／作
村上春樹／訳 あすなろ書房

少年の成長と無償の愛を注ぐ大き
な木のお話で、村上春樹さんが新た
に訳したものです。きつと読む時や人
によって感じ方が違うと思います。
「物語は人の心を映す自然の鏡のよ
うなもの」という言葉がびつたりの絵
本です。

E オ

一般書

児童書

『君の臍臓をたべたい』



住野 よる／著
双葉社

僕は病院で偶然「共病文庫」という
タイトルの文庫本を拾う。それはクラ
スメイトである山内桜良が綴った秘密
の日記帳で、彼女の余命が長くない
ことが書かれていた……

913.6 ス

『きりえや偽本大全』



高木 亮／著
現代書館

切り絵画家である著者が、文学作
品をもじった切り絵のブックカバーと
まもめじりから連想されるあらすじを
「同」これ!」とパロディーを楽しんだ
後は、ぜひ原作本の名著を手にと
りたい。

913.6 タ

『水中の哲学者たち』

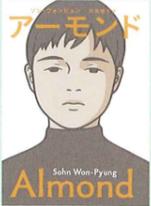


永井 玲衣／著
晶文社

なにを話してもいいけど、相手の意
見を否定しない。正解のない一つの問
いについてみながら考える哲学対話。
哲学対話だけと哲学の知識はいりま
せん。誰かと話しているけど、自分と
話している。そんな哲学対話の奥深
さを感じられる一冊です。

104 ナ

『アーモンド』



ソン・ウォンピョン／著
矢島暁子／訳 祥伝社

扁桃腺(アーモンド)が人より小さ
くて喜怒哀楽の感情がない十六歳の
少年ユンジェ。感情がないって、どうい
うこと? 不思議な感覚で読み進みま
す。不良少年ゴニ、クラスの花子ドラ
との出会いで訪れる変化と奇跡の物
語!

929 ソ

『トワイライト』



ステファニー・メイヤー／著
小原亜美／訳 ヴィレッジブックス

人間とヴァンパイアの禁断の愛を描
いた小説。超イケメンヴァンパイアの
一言一句に、アラフィフの私もキーン死
状態。今ときめいている人も、ときめ
を思い出したい人も、主人公のペラに
なりきってぜひ読んでみてください!

933 メ

『かたつむりくん』



かとう まふみ／作
風濤社

ぬるぬるるるるん。ゆつくり進む
かたつむりくん。マイペースで目の前
にある物をじっくり味わい、みんなにぬ
かされても「ほくほく」だれともくらべ
られないのよ〜ん〜と言。
日頃人と比べてしまう私は、かたつむ
りくんの言葉にドキリです。

E カ

『猫のお告げは樹の下で』



青山 美智子／著
宝島社

ある神社に現れる猫ミクジ。その猫
に会えるのはとても運の良い事!
ミクジからタラヨウの葉のお告げを授
けると、その言葉が前向きな気持ちへ
導いてくれる。
心があたたかくなる7つの物語。

913.6 ア

『日本庭園を楽しむ絵本』



大野 八生／作
あすなろ書房

子どもだけでなく、日本庭園の見
方は難しいと感じる大人の方にもお
すすめ。この本は石、砂紋、水などの
日本庭園を見るポイントやその歴史
をイラストで分かりやすく説明。
読んだら庭園を見に行きたくなるこ
と間違いなし!

629 オ

『螢草』



葉室 麟／著
双葉社

亡き父の汚名をそぐため、武家の
出を隠し女中となった十六歳の少女
菜々。奉公先の風早家の危機を救う
べく、孤軍奮闘。その健気に時に笑
い、そして涙せずにはいられない注
目。菜々をとりまく愛すべき人々にも注
目。

913.6 ハ

『そして、バトンは渡された』



瀬尾 まいこ／著
文藝春秋

親ってなんだろう、血の繋がりが、
家族って。大人の都合で何度も親が変
わる。何が不幸で何が幸せか。どんな
人生を送るのが、感じ取るのも決める
のも自分自身であるという事を、愛情
という名の「奇跡のバトン」がとても優
しく語りかけてきます。

913.6 セ

『チョコレートのおみやげ』



岡田 淳／文
BL出版

おばさんが話してくれた、しあわせ
に暮らしていたある男と二ワトリのお
はなし。ある日、二ワトリのつた一回
の出来心でしあわせは一変する。短い
物語に一度ならず二度三度、心揺さ
ぶられる。全ての年代におすすすめ。

913 オ